

<編集後記>

市民とKONCとのコラボ「かんさい自然フェスタ2008」

KONC主催イベント「かんさい自然フェスタ2008ー楽しみ・伝え・まもる私たちの自然ー」が2008年11月15日と16日に大阪市立自然史博物館で開催され、二日間での入場者数は1万人を超えました。講堂で開催されたシンポジウムや講演会にも多くの方が来場されましたが、会場内外で出展されたブース参加は42団体、ポスター発表は31件にものぼりました。多彩なイベントのいずれもが、環境や生きものたちの「今」をとらえたものであり、自然保護・保全やナチュラルヒストリーに根ざしたものでした。

このイベントは関西自然保護機構（1978年創立）の30周年を記念して、「関西各地での自然保護上の課題に直面している人々と、これまでの事例・成果を共有し、科学的な評価をするとともに各地でのこれからの保全活動にフィードバックする」ことを狙って企画されたものでしたが、研究者だけでなく、多くの市民の方々が、「自然や生きものはどうなっているのか」、また「どのように行動すればいいのか」に関心をもち、考えていただいた二日間だったと感じています。そこに集うこどもからおとなまでが、まさに「フェスタ（祭）」を楽しむような「にぎわい」であったことを企画者一同喜んでいるところで、自然フェスタで開催したシンポジウムと講演内容については、次号にポストスクリプトとして掲載いたします。ご期待ください。

さて、本号では、2008年3月に実施したシンポジウム「淀川のイタセンパラの絶滅を防げ」を特集しています。イタセンパラと河川のありようをめぐる熱い問いかけが伝わってきます。シンポジウムのパネラーのみなさまには、お忙しい折、ご執筆いただいたことを感謝いたします。特集記事、原著、報告、エッセーは、いずれも地域の自然環境に根ざした貴重な情報を含んだものです。

田んぼ・河川・森林・海洋・道路・都市開発など、各地でさまざまな自然保護上の課題が山積しています。こうした自然保護上の課題や問題を共有し、市民と研究者と行政の合意形成の場として、本誌が果たす役割も大きいと考えています。2009年も充実した会誌となるよう、会員のみなさまのご投稿・ご寄稿をお待ちしています。最後に、本誌発行が大幅に遅れましたことを深くお詫び申し上げます。

（前迫ゆり）

